

二〇二四年二月二日

路地小春あちこち布団たたく音
白骨と見しは倒木冬河原
交番所空つぽなりし小六月
小流れの水音の失せて冬に入る

満天
みちほ
うつぎ
菜々

二〇二四年二月二〇日

フレームの天井支ふ椰子高し
廃抗の間歩の入口もみづれる
玉の日の障子に動く鳥の影
大いてふ金を尽くして黄落す

菜々
雅流
三刀
はく子

二〇二四年二月一九日

苔の上に友禅模様なす紅葉
瀬々細り山は眠りに入りけり
箒目の正しき庭や石路黄なり
白波の海へ傾く冬菜畑

菜々
満天
つくし
よし女

二〇二四年二月一八日

水琴窟金の鈴ふる紅葉亭
冬空を切り裂き響くトランペット
雲垂れて鴨浮く河口墨絵めく

こすもす
かず
三刀

二〇二四年二月一七日

中腹に金の観音山粧ふ
亀石と化し甲羅干す池小春
せせらぎへ紅葉且つ散る太鼓橋
大樟の根方は石路の花明り

雅流
宏虎
あさこ
さつき

二〇二四年二月一六日

石蹴りに興ず路地裏一葉忌
口紅をおちよぼに塗られ七五三
秋天へチャペルのミサの鐘響く

有香
ぼんこ
さつき

二〇二四年二月一五日

手庇に見ゆる湖心の浮寝鳥
散紅葉仏足石に堆く
大根の青首畝をせりあがる

さつき
よし女
宏虎

毎日句会みのる選・二〇二四年二月三日